

第4節 サウジアラビアの対イスラエル・パレスチナ姿勢

近藤 重人

近年、サウジアラビアのイスラエルとの接近が取りざたされている。両国ともイランという脅威を共有しており、また米国のトランプ（Donald Trump）政権が両国の接近を後押ししていると見られるからである。しかし、サウジアラビアは東エルサレムを首都にしたパレスチナ国家の樹立などを掲げる「アラブ和平イニシアティブ」という中東和平提案を堅持し、そのもとでしかイスラエルとの外交関係の樹立はありえないという立場を基本的に維持している。また、パレスチナ問題における伝統的なパートナーであるパレスチナ自治政府とは概ね良好な関係を維持するものの、ガザ地区を支配するハマース（Hamas）に対しては厳しい姿勢を貫いている。以下では、これらの諸点について概観したい。

(1) 「アラブ和平イニシアティブ」の原則

サウジアラビアの中東和平政策の諸原則は、2002年3月にアラブ連盟の中東和平政策として発表された「アラブ和平イニシアティブ」の中に凝縮されている。その要点は、イスラエルが第三次中東戦争以前の境界線に戻り、ヨルダン川西岸とガザ地区に東エルサレムを首都とするパレスチナ国家が建設されることなどと引き換えに、イスラエルと平和条約を締結するというものである¹。同構想は依然としてサウジアラビアの対イスラエル・対パレスチナ政策の基本であり続けている。

この「アラブ和平イニシアティブ」が政策の基本であるために、最近の米国またはイスラエルによる既成事実化の動きについても原則的な立場から批判が加えられている。たとえば、トランプ政権が2017年12月にエルサレムがイスラエルの首都であると認定する直前、サルマーン・ビン・アブドゥルアジーズ（Salmān bin ‘Abd al-‘Azīz Āl Sa‘ūd）国王は同大統領に電話で直接反論した。東エルサレムを含んだエルサレムがイスラエルの首都となれば、「アラブ和平イニシアティブ」が掲げる東エルサレムを首都としたパレスチナ国家の独立は実現不可能となるからである。

また、2019年3月に米国がゴラン高原におけるイスラエルの主権を認定した時にも、同様に反発した。これは、とりもなおさず第三次中東戦争で獲得した領土を認めないという「アラブ和平イニシアティブ」の原則に照らした対応である。現在のサウジアラビアとシリアのアサド（Bashshār al-Assad）政権は、シリア内戦勃発以降、断交状態が続いているが、かといって「アラブ和平イニシアティブ」の原則を放棄するには至らなかった。なお、こうした一連のトランプ政権の一方的な認定行為に対して、サウジアラビア政府は、電話や声明での反発以上の行動には出ておらず、米サ関係に与えた影響は限定的であると言える。

(2) ムハンマド皇太子とクシュナー上級顧問の関係

このような「アラブ和平イニシアティブ」という大原則を踏まえれば、イスラエルが妥協しない限り、サウジアラビアが同国の立場に歩み寄ることはあり得ないように思えるが、それにもかかわらず、両国の接近が噂されているのは、米国のジャレッド・クシュナー（Jared Kushner）大統領上級顧問とサウジアラビアのムハンマド・ビン・サルマーン（Muhammad bin Salmān Āl Sa‘ūd）皇太子の関係があるからである。両者はトランプ政権が発足して以来何度も会合を重ね、イラン問題を含めて広範な意見交換を行っていると考えられるが、クシュナー顧問が練っているとされる「世紀のディール」と称される中東和平案についても協議していることが伺われる。

たとえば、2017年12月3日付のニューヨーク・タイムズは、ムハンマド皇太子がパレスチナのマフムード・アッバース（Mahmūd Abbās）大統領に対して、東エルサレムの解放を諦め、東エルサレム郊外にあるアブー・ディースを首都にするということで妥協せよと迫ったと報じている²。この真偽は明らかではないが、ムハンマド皇太子がクシュナー顧問の要請に応える形で、パレスチナのアッバース大統領に対して圧力を加える役回りを演じたというのは、考えられない話ではない。ただし、後述するように、サルマーン国王が、2018年4月に「アラブ和平イニシアティブ」の原則を再び全面に出した「エルサレム・サミット」を開催して以降は、ムハンマド皇太子とクシュナー顧問の中東和平に関する協力は下火になった感がある。

その後しばらくの空白期間を経て、クシュナー顧問は「世紀のディール」の経済部分の構想を先行させて進めるという方針に展開した模様であり、サウジアラビアに対しては同構想への資金の拠出国となることを期待した。たとえば、クシュナー顧問は2019年6月25日・26日にバハレーンで自らの主導で開催したパレスチナなどへの経済支援に関する会議へのサウジアラビアからの参加を求めた。結果的にG20会合のためムハンマド皇太子は出席しなかったものの、ムハンマド・アールッシェイフ（Muhammad al-Sheikh）国務相、ムハンマド・ジャドアーン（Muhammad bin Abdullāh Al-Jad‘ān）財務相とヤーセル・ルメイヤーン（Yāsir al-Rumayyān）公的投資基金総裁という側近3名が同会議に派遣されるに至り、サウジ側は協力姿勢を示した。ただ、この会議自体は成果がなく、サウジアラビアからも特に拠出表明はなかったが、ムハンマド皇太子がクシュナーの要請にある程度応じていることは確認できる。

1960年代からパレスチナ側への支援などを行ってきたサルマーン国王と比べ、ムハンマド皇太子は、イスラエルとパレスチナについて、より従来のアラブの伝統的な立場から自由な発想をする余地があるように見受けられる。しかし、同皇太子としても何の見返りもなくクシュナー顧問が練る親イスラエルの「世紀のディール」に乗っているとは考えにくく、それなりの得られるものを期待しているのだろう。それが何なのかは両者の会談

の機密性から断定しにくいですが、たとえば米国からの一層の防衛上の協力、経済開発への協力、原子力発電に関する協力などが挙げられるだろう。ムハンマド皇太子としては今後もクシュナー顧問との関係を米政権への重要な接点として維持し続けていくと思われる。

(3) パレスチナ諸勢力との関係

(a) パレスチナ自治政府

上述したように、2017年12月にムハンマド皇太子が「圧力」をかけたとされる件により、ムハンマド皇太子とパレスチナのアッバース大統領との関係が悪化した可能性はあるが、その後は両者の関係は修復されている。2018年4月にサルマーン国王がサウジアラビア東部州で開催した「エルサレム・サミット」ではアッバース大統領が招へいされ、ムハンマド皇太子とも同じ写真に収まっている。また、2019年2月12日にはアッバース大統領がサウジアラビアを訪問してムハンマド皇太子と会談し、両者は「アラブ和平イニシアティブ」や関連する国際的な決議に沿って、東エルサレムを首都としたパレスチナ人の正統な権利の保証に向けた努力の継続を強調した。

このように、現在ではムハンマド皇太子とアッバース大統領の間では当面「アラブ和平イニシアティブ」を軸にした線で協調していくことで合意している。ムハンマド皇太子はアッバース大統領との間だけではなく、たとえば2月17日に訪問したパキスタンでも同国のハーン（Imran Khan Niazi）首相と「アラブ和平イニシアティブ」を堅持する姿勢を確認しており、クシュナー顧問が求めていた「世紀のディール」からは距離を置いている模様である。

(b) ハマースとの関係

サウジアラビアはハマースに対しては厳しい政策を取っている。サウジアラビアでは、2014年にハマースの母体であるムスリム同胞団をテロ組織に指定し、ハマースとの関係も悪い状況にあった。しかし、2015年1月にサルマーン国王が即位すると、一時的に両者の雪解けとも思える現象が現れた。たとえば、同年7月にハマースのハーリド・ミシュアル（Khālid Mash'al）政治局長がマッカを訪問し、サルマーン国王やムハンマド皇太子、ムハンマド副皇太子（現皇太子）と会談している。しかし、雪解けは短いものとなった。ムハンマド皇太子はムスリム同胞団に厳しい政策を取る UAE のムハンマド・アブダビ皇太子（Muḥammad bin Zāyed Āl Nahyān）と連携を取る中で、ハマースへの政策も厳しくしていった。2017年6月にはハマースの支援者でもあるカタールと断交した。両者の関係改善の目途は立っていない。

追記

トランプ大統領が2020年1月28日に「世紀のディール」と呼ばれてきた中東和平案（「平和から繁栄へ」）を発表したが、サウジ外務省はイスラエル・パレスチナ間の包括的な和平案に関するトランプ政権の「取り組みを評価する」との声明を發し、それに正面から反対することはしなかった。その背景には、上述の通り米側が綿密に本案の作成段階からサウジ側に相談をしていたことがある。また、本案はサウジアラビアに対するイランの脅威と、それに対してイスラエルとアラブ諸国が共同して対処する必要性についても強調しているが、イランの脅威を感じているサウジアラビアとしてもこの点は有益であった。また、サウジアラビアがこれまで掲げてきた「アラブ和平イニシアティブ」を評価する部分があり、その点も好感されたのだろう。従って、パレスチナやアラブ・イスラーム世界の一般的な世論への配慮から、同案を公然と支持をすることは避けたが、特にムハンマド皇太子は同案を安全保障面で有益な提案と評価していると思われる。

— 注 —

- ¹ “Arab Peace Initiative,” League of Arab States in Washington, D.C., USA <<http://arableague-us.org/wp/wp-content/uploads/2012/06/2002.pdf>>, accessed on October 31, 2019.
- ² “Talk of a Peace Plan That Snubs Palestinians Roils the Middle East,” *The New York Times*, December 3, 2017 <<https://www.nytimes.com/2017/12/03/world/middleeast/palestinian-saudi-peace-plan.html>>, accessed on October 31, 2019.